

分野（3）

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

③COPD患者の機能回復に関する調査研究

研究課題名：COPD患者における日常生活活動性の定量評価法の確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名：一ノ瀬正和

評価コメント

- 日常生活活動性の定量評価法としての有用性が示唆された。
- COPDの患者の活動性をこのような方法で呼吸機能障害と関連して半定量的に客観的に評価しようとするもので、独創性のある、なかなか興味ある研究である。COPDの患者の日常の活動性や運動療法の効果を評価する上で、有用な研究手法だと思われるので今後もさらに検討を重ねてほしい。
- COPDにおけるADLの客観的評価指標は重要であるがわが国での検討成績は少ない。今回の成績は簡便な方法への展望をもたらした。睡眠中の評価法との関連もさらに検討することを期待する。
- DynaPort及びActimarkerが広く臨床に使用される可能性はあるのか。患者のQOLの向上の評価に本当に役立つのかを検討してもらいたい。
- COPD患者の日常生活活動性の定量的評価法を確立しようとする試みは評価できる。しかし採用しようとしている機器が2MET s以上の活動性が担保されているが、それ以下の活動の評価には不適というものは多少の不満が残る。COPD患者がゆっくりとした動作を行った場合には2MET s以下の動作も多いと思われるが、それでもトイレなどの活動性が改善したとみなせる場合も多いので、そこをどのように評価するかが課題と思われる。また改善効果の評価がなされていないので、上記のことを考慮の上、今後の研究を進めるべきである。
- COPDの患者の歩行速度が、健常者と同じであったということは対象としたCOPDが軽症であったということなのか疑問である。もう少し重症例も加えて解析すべきである。
- DynaPortやActimarkerが総合的な活動性を評価しているのであれば、呼吸筋力や下肢筋力、一秒量を含む呼吸機能ともっと相関があつてよいと思うが、何故相関性が低いのか検討する必要がある。